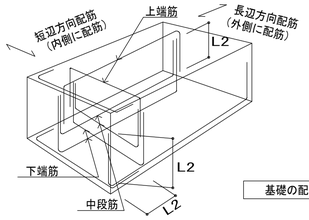
標準配筋要領図（2）

注）1. 図表中の寸法の単位はmmとし、単位記号は省略する。
2. 図中の（要）は本標準配筋要領図を示す。（例えば要 0.3「組立」は、標準配筋要領図0.3「組立」の項を示す。）
3. 図中の（標）は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成25年版」を示す。（例えば、（標）表5.3.2は、標準仕様書の表5.3.2を示す）

1節　杭・基礎及び基礎梁の配筋

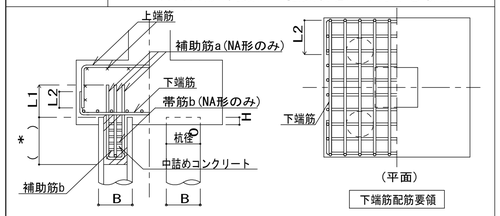
1．1　杭基礎

杭、杭基礎の配筋及び杭頭部の補強要領は、次による。
（1）　既製コンクリート杭の杭頭部の補強要領は、図1.1のNA形・NAA形又は、図1.2のNB形とし、適用は（　　）形とする。記入がなければ、NB形とする。
（2）　中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。
（3）　基礎の配筋は下記による。



基礎の配筋

1．1．1　既製杭（ＮＡ形）（ＮＡＡ形(杭頭に補強鉄筋を取り付ける場合)）



下端筋配筋要領

（注）1.　補助筋a及び帯筋bは、NA形のみ配筋する。
2.　上端筋・下端筋・側面配筋は、断面表による。
3.　杭頭が所定の位置より深く止まった場合は、フーチング全体を下げてもよい。
4.　*印寸法は、記入がなければ1.5Bとする。
5.　杭の埋め込み長さ(H寸法)は（　　）とする。
記入がなければ100とする。
補強筋は下表（PHC杭B種に相当）による。
下表を適用しない場合は別図による。
7.　NAA形の補助鉄筋の取付け方法は別図による。

（PHC杭B種相当）

杭径D	補強筋a	帯筋b
300φ	凵 型2組 D13	D10 @100
350φ．400φ	凵 型3組 D13	D10 @100
450φ～600φ	凵 型4組 D13	D10 @100

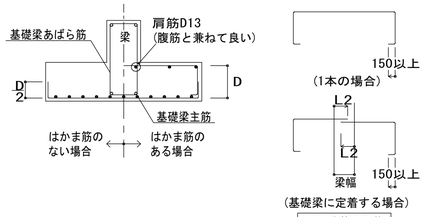
（上記以外）

杭径D	補強筋a	補強筋b

図1.1　既製杭基礎の配筋及び杭頭部の補強要領(NA形)

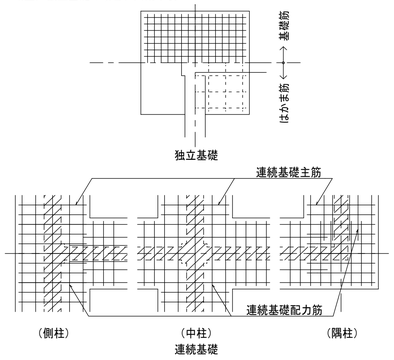
1．2　直接基礎

直接基礎(独立基礎，連続基礎)の場合の配筋要領は、図1.6による。



はかま筋の形状

（注）独立基礎の場合、肩筋不要

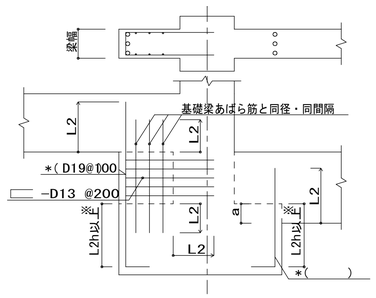


基礎筋の納まり

図1.6　直接基礎の配筋要領

1．3　基礎接合部の補強

基礎接合部の補強配筋は、図1.7による。



（注）1.　＊印鉄筋は記入がなければD19 @100とする。
2.　スパン中間に基礎を設けた場合も上図による。
3.　a：杭基礎600未満，直接基礎300未満の場合に＊印鉄筋を入れる。
※　L2hを確保できない場合は要　0.4(d)(3)によることができる。

図1.7　基礎接合部の補強配筋

1．4　基礎梁

（a）一般事項
（1）　上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる。
（2）　梁筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図1.8による。
（3）　梁筋を柱内に定着する場合は、梁筋は図1.9、図1.10、図1.11に従い定着する。
（4）　次項(b)，(c)，(d)の適用は、（　）とする。記入がなければ監督職員と協議の上決定する。

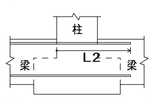
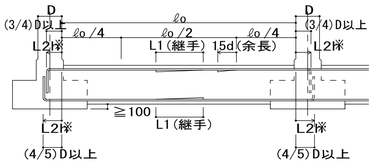


図1.8　梁筋の基礎梁内への定着

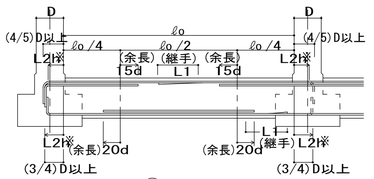
（b）　独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図1.9による。



（注）1．　図示のない事項は要 3.1による。
2．　印は、継手及び余長位置を示す。
3．　破線は、柱内定着の場合を示す。
4．　柱せいDが小さい場合において上図の(4/5)D以上又は(3/4)D以上が満足できないときは、柱の中心軸を超えてから縦に定着する。
※　L2hを確保できない場合は要　0.4(d)(3)によることができる。

図1.9　主筋の継手、定着及び余長(その1)

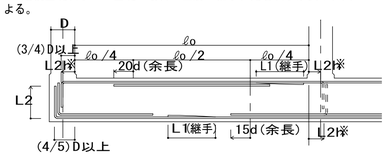
（c）　独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図1.10による。ただし、耐圧スラブ(礎版)が付く場合は、(d)による。



（注）1．　図示のない事項は要 3.1による。
2．　印は、継手及び余長位置を示す。
3．　破線は、柱内定着の場合を示す。
4．　柱せいDが小さい場合において上図の(4/5)D以上又は(3/4)D以上が満足できないときは、柱の中心軸を超えてから縦に定着する。
※　L2hを確保できない場合は要　0.4(d)(3)によることができる。

図1.10　主筋の継手、定着及び余長(その2)

（d）　連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図1.11による。



（注）1．　図示のない事項は要 3.1による。
2．　印は、継手及び余長位置を示す。
3．　破線は、柱内定着の場合を示す。
4．　柱せいDが小さい場合において上図の(4/5)D以上又は(3/4)D以上が満足できないときは、柱の中心軸を超えてから縦に定着する。
5．　基礎梁下端と基礎下端が同じ場合の鉄筋の定着は、本要領に倣うものとする。
※　L2hを確保できない場合は要　0.4(d)(3)によることができる。

図1.11　主筋の継手、定着及び余長(その3)

（e）　基礎小梁及び片持基礎梁の主筋の定着は図1.12による。
主筋の継手及び余長は(b)～(d)により、適用は（　）とする。記入がなければ監督職員と協議の上決定する。
片持基礎梁及び片持基礎小梁には継手を設けない。
※　L2hを確保できない場合は要　0.4(d)(3)によることができる。

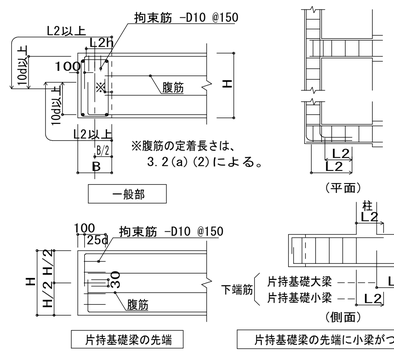
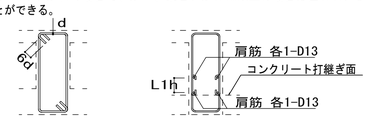


図1.12　基礎小梁及び片持基礎梁の主筋の定着

1．5　基礎梁のあばら筋等

（a）あばら筋
（1）　あばら筋の径及び間隔は、断面表による。
（2）　あばら筋組立の形及びフックの位置は、3.2による。ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は図1.13によることができる。



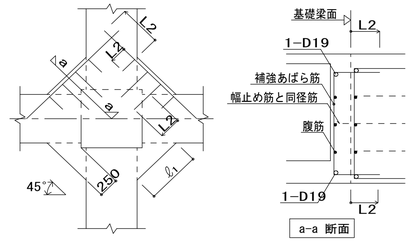
一般の場合　　重ね継手とする場合

図1.13　あばら筋組立の形及びフックの位置

（b）　腹筋及び幅止め筋は、3.2(a)(2)から(4)及び3.2(d)による。
（c）　あばら筋の割付けは、3.2(c)による。

1．6　基礎梁の補強

（a）　打増し補強筋は、3.3 による。
（b）　土間スラブ等の打継ぎ補強筋は、5.3(c)による。
（c）　基礎梁水平ハンチ部の補強要領は図1.14による。
場所打コンクリート杭がある場合は図1.4による。

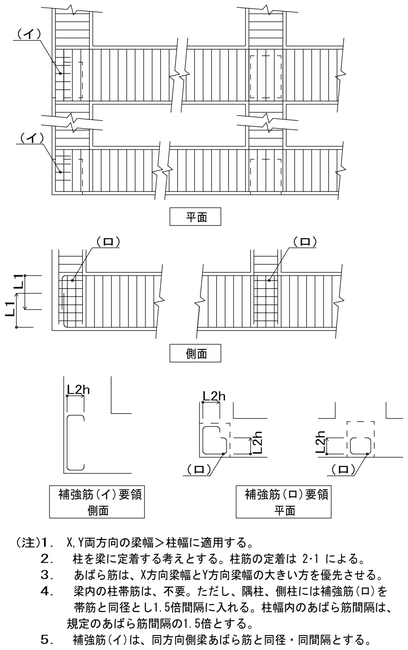


a-a 断面

（注）1．　この項で扱う基礎梁の水平ハンチとは基礎梁断面表に特記がなく伏図のみに示される水平ハンチをいう。
2．　水平ハンチ部の腹筋及び補強あばら筋はX･Y方向基礎梁の規定鉄筋の大きい方と同径・同間隔とする。
3．ℓ1　が200以下の場合は補強筋不要。

図1.14　基礎梁水平ハンチ部の補強要領

（d）　柱幅が梁幅よりも小さい場合の補強要領は図1.15による。



補強筋(イ)要領 側面　　補強筋(ロ)要領 平面

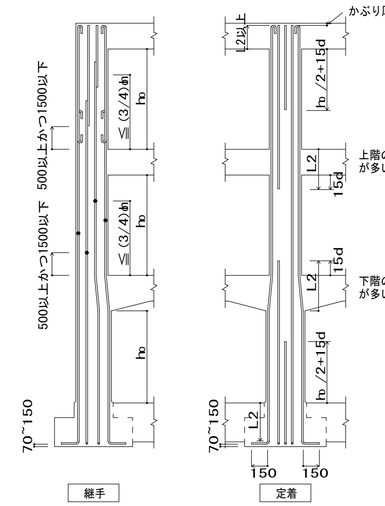
（注）1．　X,Y両方向の梁幅＞柱幅に適用する。
2．　柱を梁に定着する考えとする。柱筋の定着は 2･1 による。
3．　あばら筋は、X方向梁幅とY方向梁幅の大きい方を優先させる。
4．　梁内の柱帯筋は、不要。ただし、隅柱、側柱には補強筋(ロ)を帯筋と同径とし1.5倍間隔に入れる。柱幅内のあばら筋間隔は、規定のあばら筋間隔の1.5倍とする。
5．　補強筋(イ)は、同方向側梁あばら筋と同径・同間隔とする。

図1.15　柱幅が梁幅よりも小さい場合の補強要領

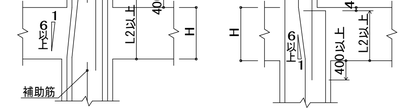
2節　柱の配筋

2．1　柱

柱主筋の継手及び定着は次による。
（1）　継手及び圧接中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下、かつ(3/4)ho (h は柱の内法高さ) 以下とする。
（2）　重ね継手長さはL1とし、定着及び余長は図2.1による。なお、柱頭定着長さはL2以上かつ柱頭かぶり厚さまでとする。柱頭定着長さL2が確保できない場合は柱内に折り曲げL2を確保する。



継手　　定着



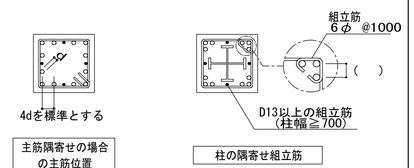
（A/H≦1/6の場合）　　（A/H＞1/6の場合）

中間階

（注）1．要　0.2[加工](b)(1)で定めた鉄筋には、フックをつける。
2．　隣り合う継手の位置は要 0.5[隣り合う継手の位置]による。
3．　継手、定着は、すべての階に適用できる。
4．　柱補助筋の継手長さは150とする。

図2.1　柱主筋の継手、定着及び余長

（3）　柱主筋は原則として等間隔に配筋する。ただし、主筋の隅寄せは柱断面表に表示のある場合のみとし、図2.2による。



主筋隅寄せの場合の主筋位置　　柱の隅寄せ組立筋

図2.2　柱主筋の隅寄せ

着工	平成 28年 6 25			本標準配筋要領図に使用される記号							
竣工	令和 元年 11 30			B	リストに示す梁幅	L2	一般鉄筋の定着長さ	W	屋根・床スラブの開口（長辺方向）の大きさ	ℓ	梁のスパン，片持ちスラブのスパン
監理	監理　日建・上田特定監理業務等共同企業体			D	リストに示す柱幅	L3	小梁、スラブの下端筋の定着長さ	d	鉄筋の呼び名に用いた数値	ℓo	梁の内法スパン
				E, F	柱梁の打増寸法	L1h	フックあり継手及び定着長さ	h	階高	ℓx,ℓy	長方形スラブの短辺有効スパン
施工	施工　大成・大旺新洋特定建設工事共同企業体			H	リストに示す梁せい	L2h, L3hフックあり定着長さ		ho	柱の内法高さ	t	リストに示すスラブ又は壁厚さ
				L1	一般鉄筋の継手及び特殊な場合の定着	P	壁開口（円孔）の大きさ				

完成図　構-15

日建・上田特定設計委託業務共同企業体

高知市都市建設部公共建築課	担当	担当	係長	課長補佐	副参事	課長

高知市新庁舎建設工事

標準配筋要領図（2）

構 15 3－2

NO. 0－140004－B